

2025年02月25日 デイリー版1面

造船/船用

シップパートナーズ、船舶リース開始へ。中国銀行と資本提携。日本造船所を支援

シップパートナーズ（本社・東京）は、中国銀行（同・岡山市）と資本提携を結び、船舶ファイナンスの新たな枠組みの構築を目指す。船舶ファイナンスのポータルサイト「ShipFinance.jp」を活用し、金融機関に対して管理業務の効率化・高度化を図り、海外顧客にも対応した融資シミュレーションサービスを提供する。事業規模としてファイナンスリース組成額10億ドル（約1500億円）を目指すほか、海外船社が日本造船所に発注する新造船にファイナンス（融資）することで、日本造船所を側面から支援することも事業目的として掲げる。

■地銀の課題を解決

シップパートナーズが運営する「ShipFinance.jp」は、海外船社や金融機関に向けて船舶ファイナンスのシミュレーション・与信管理・書類作成機能などを提供するプラットフォーム。同サイトを活用することで、海外顧客は日本の一般的な融資条件やLTV（ローン・ツー・バリュー）を瞬時に算出できるようになる。金融機関向けのAI（人工知能）を用いたシミュレーション・与信管理・書類作成機能は有料サービスとする。

シップパートナーズは、ファイナンスリース額として10億ドル（約1500億円）の組成を目指す。これにより、日本造船所で建造される船舶への融資を推進し、日本の海事クラスターの活性化を図る。

従来、地方銀行が船舶ファイナンスを行う際には、海外顧客とのコミュニケーション、与信管理、数値計算、契約書作成などの営業活動以外の管理業務のワークロードの増大も大きな課題となっていた。

今回、シップパートナーズは、「ShipFinance.jp」の提供するAIの活用により、それら管理業務の効率化・高度化を実現する。



(左から)福富氏、簀戸氏、金氏

また、このシステムは日本船主向け船舶ファイナンスにも利用可能。これまで船舶ファイナンスを行ってこなかった地方銀行もプラットフォームの利用が可能で、ノウハウの提供により新規参入も促す。

シップパートナーズは新サービスの導入で、国内金融機関の日本で建造される船舶向け融資総額の増加を目指す。

同時に融資の借り手である海外船社も「ShipFinance.jp」を通じて、一般的な自身の融資額やリスク評価を瞬時に把握することが可能になる。日本の船舶ファイナンスにより身近に接することができる。

シップパートナーズの福富傑氏は、今回の資本提携の目的について「日本の海事クラスターの中核である日本の金融機関、造船所の一助となるサービスを提供すること」と説明する。

世界の造船市場では、中国造船所が建造能力・受注能力ともに世界シェアの50%以上を占め、日本造船所は世界第3位の位置にある。

この点について、シップパートナーズの簀戸健作氏は、日本造船所のバルカーの品質と性能の高さを強調する。

簀戸氏はかつて香港船社大手パシフィック・ベイスンで日本建造のバルカーを多数運航した経験を持ち、「バルカーについては日本の造船所が圧倒的に優れている」と強調。「この高い性能こそが日本の海事クラスター競争力の中核の一つとなっている」と述べた。

シップパートナーズはファイナンスリースの対象として当面、バルカーとMR（ミディアム・レンジ）型プロダクト・タンカーの2種類に絞る方針だ。

■プロトタイプ完成

中国銀行との資本提携は2024年秋に完了。シップパートナーズは自社の主力サービスである「ShipFinance.jp」のプロトタイプ（試作）開発の完了を待ち、海外船社向け営業活動を本格的に開始した。

「ShipFinance.jp」の開発に携わった金正賢氏（サムスン重工業出身・自律運航船プロジェクトリーダー）は、「これまで貸し手（銀行）と借り手（船主など）が日常業務に利用できるウェブサイトは存在しなかった。このサイトではAI、ビッグデータ、金融工学なども日々の船舶ファイナンス業務に活用できる」と説明する。

1号案件の融資実行を6月に予定しており、シップパートナーズはこれを皮切りに本格的なファイナンス事業の展開を進める。

これまで、地方銀行は海外船社への融資で与信管理のハードルが高く、慎重な姿勢を取る傾向があった。シップパートナーズは、「ShipFinance.jp」を活用することで、より多くの地方銀行がグローバルなマーケットにアクセスできるようサポートする。「最終的には、地方銀行が海外顧客と自ら取引を行えるようになり、日本の造船業を含む海事産業全体が活性化することを目標としている」と福富氏は語る。

シップパートナーズは25年3月から欧州市場への展開を本格化させる予定だ。ファイナンスリースの組成額として目標とする10億ドルの達成に向け、海外の顧客との契約を加速させる方針。

今回の中国銀行との資本提携により、シップパートナーズは、日本の金融機関と連携して日本造船所への新造船発注を促進し、日本の海事産業の競争力を高める役割を目指す。